

第2回ワークショップ

真正で探究的な学びを実現する パフォーマンス課題とは

2017・2018 年改訂の学習指導要領のもとでは、「資質・能力のバランスのとれた学習評価」を行なっていくために、パフォーマンス評価を取り入れることが推奨されています。教科書においてもパフォーマンス評価と呼べるような課題が掲載されるようになっていきます。

本ワークショップでは、最初に全体会でパフォーマンス課題の考え方を確認した上で、各分科会（国語、算数、理科、社会）に分かれて真正で探究的な学びを実現するパフォーマンス課題の実践の進め方について、小学校または中学校の事例をもとに考えます。その際、E.FORUM が TOPPAN 株式会社と共同で開発したデジタル・コンテンツについてご紹介し、実際に先生方に体験していただくことで、パフォーマンス課題の実践上のポイントを探ります。

2025. 8.20 水 13:00-16:00 (受付 12:30-)

参加費
無料

会 場

京都大学本部構内 総合研究3号館（受付・全体会）
総合研究2号館・4号館（ワークショップ）

対 象

学校の先生方、教育委員会関係者、教員志望の学生
(先着100名程度)

プログラム

※タブレットやPC等の端末をご持参ください※

Wifi環境は主催者側で用意します。

13:00～13:45 全体会

趣 旨 説 明

松下 佳代（京都大学大学院教育学研究科 教授）

「4 教科におけるパフォーマンス課題を生かしたデジタル・コンテンツと評価手法の開発」

奥村 好美（京都大学大学院教育学研究科 准教授）

水越 駿（TOPPAN株式会社）

14:00～16:00 ワークショップ（国語・算数・理科・社会より選択）

「国語科でのパフォーマンス課題づくりー教えたいことと学びたいことの橋渡し」

本宮 裕示郎（滋賀県立大学 准教授）

「算数科におけるパフォーマンス課題とは」

奥村 好美（京都大学大学院教育学研究科 准教授）

「理科におけるパフォーマンス課題の理論と実際」

大貫 守（愛知県立大学 准教授）

「社会科におけるパフォーマンス課題の発想と論点」

若松 大輔（弘前大学 助教）

池田 泰弘（弘前大学 准教授）

お問合せ

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM事務局
e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

デジタル・コンテンツ開発、並びに本ワークショップは、内閣府によるSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」における研究開発「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」（研究開発責任者：松下佳代）の一環として行っています。

※タブレットやPC等の端末をご持参ください※

Wifi環境は主催者側で用意します。

国語科 でのパフォーマンス課題づくり

——教えたいことと学びたいことの橋渡し——



本宮 裕示郎
滋賀県立大学
准教授

どのような課題であれば子どもも教師も夢中になって取り組むことができるのでしょうか。本ワークショップでは、昨年度開発されたパフォーマンス課題（小学校5年「地域の文化を発信しよう」でのポスター発表）をもとに、教師が教えたいことと子どもの学びたいことを橋渡しするようなパフォーマンス課題のあり方について考えたいと思います。今年度開発している中学校のパフォーマンス課題についても紹介します。

算数科 における

パフォーマンス課題とは

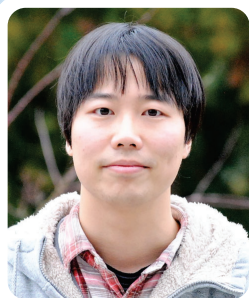


奥村 好美
京都大学大学院
教育学研究科
准教授

算数科や数学科では、パフォーマンス課題を取り入れるのが難しい、と感じている先生もおられるかもしれません。本ワークショップでは、昨年度開発された、小学校5年生の算数科の単元「面積」におけるパフォーマンス課題を事例として、実際にパフォーマンス課題に関するデジタル・コンテンツ（都道府県のおおよその面積を求めるシミュレーター）の体験を行なっていただきながら、算数科におけるパフォーマンス課題のあり方を探ります。

理科 における

パフォーマンス課題の理論と実際



大貫 守
愛知県立大学
准教授

本ワークショップでは、理科におけるパフォーマンス課題の理論と実際について学びます。具体的には、中学校の理科の単元「生命の連続性」におけるパフォーマンス課題を事例にパフォーマンス課題について深めていきます。実際に中学3年生で実施予定のパフォーマンス課題やそれに関わるデジタルコンテンツを受講生自身が体験しつつ、その背景にある単元設計の理論やワークショップにおける実践を往還しながら、パフォーマンス課題の理論や実践に関する理解を深めることを目的としています。

社会科 における

パフォーマンス課題の発想と論点



若松 大輔
弘前大学 助教



池田 泰弘
弘前大学 准教授

パフォーマンス課題は、評価課題であると同時に、現実的には学習課題の役割を担う場合も多くあります。そのため、魅力的な課題、かつ高次の思考を促す課題であることが求められます。このワークショップでは、小学校第5学年の産業学習の具体例を中心に扱いつつ、パフォーマンス課題を取り入れた授業づくりの発想とその論点を提示します。その上で、参加者のみなさんと一緒に「魅力的な社会科パフォーマンス課題とはどのようなものか？」を探っていきたいと思います。

アクセス



お申込み



左記のQRコードより
お申込みください。

締切：7月25日（金）
定員になり次第締め切ります